

2025年度 文学部留学ガイドンス

佐々木憲一

(文学部・文学研究科国際交流委員会 前委員長)

A. はじめに

1. 留学は、違ったものの見方に触れる最高の機会→自己を客観的に見つめる機会となる
2. 学内だけでも以下の通り様々な留学がある（卒業までに留学を体験することで、卒業後、海外の大学での学位取得を目指すことの一助となる）

B. 留学に先立って

1. 「留学入門講座」「留学準備講座」（和泉開講）：留学とは何か、留学の歴史を学ぶ
2. 「Social Science Research Methods」「Ethnographic Fieldwork」（和泉開講）：海外の授業履修で必要となる学習技術を学ぶ
3. 「Japanese Society」「Japanese Culture」（和泉開講）：外国人に日本文化を説明する技術を学ぶ

C. 「協定校」留学

1. 1学期ないし1学年間、大学や文学部が学生交換協定を結んだ大学に留学する制度
2. 授業料は明治大学に納め、受け入れ先の大学の授業料は免除（学費負担型もあり）
3. 帰国後、受け入れ先で単位を修得した科目に対し、文学部で単位が認定される（すべての授業ではない）
4. 滞在費は自費（日本学生支援機構 JASSO から月額 10 万円ほどの奨学金への申請が可能となる場合がある。そのほか、明治大学外国留学奨励助成金の制度がある）
5. 大学間協定留学、学部間協定留学いずれも学内選抜がある

D. テンプル大学日本校（文学部協定校）への「国内留学」

1. 明治大学に通いながら、三軒茶屋にあるテンプル大学日本校（ジャパンキャンパス）で開講している様々な授業を科目等履修生として受ける、文学部との単位互換制度。授業は全て英語で実施される
2. 授業料は明治大学へ納め、テンプル大学日本校へ授業料を払う必要はない
3. アメリカ合衆国の大学と同様、一科目の授業は 50 分が週 3 回、あるいは 90 分が週 2 回で、毎回多くの課題文献が課され、日本の大学に比べ授業は厳しい
4. ブリッジ・プログラム（英語を母国語としない学生のための英語集中授業）もお奨め。ただし明治大学での授業を受ける時間的余裕が少なくなるが、「海外短期留学関係科目」等で単位取得可能

5. テンプル大学はアメリカ合衆国フィラデルフィア所在ペンシルヴァニアの州立大学で、本学の協定校
- E. 「認定校」留学
1. 1 学期ないし 1 学年間、大学・文学部が学生交換協定を結んでいない海外の大学へ留学する制度
 2. 受入先の大学および明治大学の授業料を両方払う必要がある。滞在費も自費（協定校留学と同様の助成制度あり）
 3. 帰国後、受け入れ先で修得した科目に対し、文学部で単位が認定される（すべての授業ではない）
- F. SOAS 夏季短期研修プログラム
1. ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）へ 3 週間または 6 週間留学
 2. 複数の短期集中コースの中から、希望するコースを選択する。コースは文学・芸術・メディア・映画・国際関係論と多岐にわたっており、全て英語で開講される。英語力の向上に限らず、興味にある分野について集中的に学ぶことができる
 3. 旅費や寮費はすべて自費（文学部から一定額の補助が出る場合もある）
 4. SOAS で修得した科目に対し、文学部で単位が認定される（すべての授業ではない）
- G. 海外現地研修 A・B
1. 今年度の開講
 - a. 英国：7 月 3 日～14 日：15 名程度（2～4 年次）
 - b. 中国：12 月 24 日～28 日：15 名程度（全学年）
 - c. ベトナム：9 月 8 日～14 日：20 名程度（全学年）
 2. 1 週間程度海外へ渡航し、現地大学との交流、事前学習や事後レポートの提出等を行う
 3. A（1 単位）と B（2 単位）は海外で見学などに費やす時間の違い（飛行機に乗っている時間は含まない）
 4. これにかかる旅費は現在のところすべて自費（文学部から一定額の補助が出る場合もある）
- H. その他
1. 文学部以外の学部が主催する短期プログラムについても、他学部履修の形で卒業要件に含められる可能性がある。
 2. 手続きなど質問があれば、bungaku@mics.meiji.ac.jp へ